

7月度 グレタさんについて

地球環境に学ぶ 小田原一博記

17歳のグレタ・トゥーンベリさん(Greta Thunberg)が、地球温暖化危機を訴えて世界を驚かせています。2018年スウェーデン国会議事堂前で地球温暖化問題の危機を訴え、一人座り込み抗議を開始、2019年9月には国連で、世界の首脳の前で危機を訴えました。「地球環境に学ぶ」サークルではグレタさんの発言・行動・反響を調べサークル内で討論を行ないました。

1. はじめに、グレタさんとは

2003年スウェーデン生まれ。11歳のとき授業で環境問題の映画を観て衝撃を受け、以来摂食障がい。人と話さなくなりアスペルガー症候群(いわゆる自閉症)と診断されるが、気候問題は独学を続けた。

15才の時、2018年8月20日からスウェーデン国会議事堂前で、「気候のための学校ストライキ」という看板を掲げ、3週間通い座りこみを決行。その光景がSNSで世界に拡散しマスコミが殺到。以後も毎週金曜日に「未来のための金曜日」と名づけ議事堂前に立ち、世界中の子供達にも参加を呼び掛けた。

2019年9月23日に国連本部で開かれた気候変動サミットで、12月11日に国連気候変動枠組み条約会議(COP25)で、2020年1月は世界経済フォーラム(ダボス会議)でスピーチし、大物政治家や大企業家たちを前に彼らを厳しく批判、すぐに気候変動の具体的対策を打つよう訴えている。



気候のための学校ストライキ



未来のための金曜日

2. グレタさんの主張とは (以下2019年9月13日、国連スピーチ和訳の抜粋)

人々は苦しんでいます。人々は死んでいます。生態系は崩壊しつつあります。私たちは大量絶滅の始まりにいるのです。なのに、あなた方が話すことはお金のことや、永遠に続く経済成長というおとぎ話ばかり。よくそんなことが言えますね。(How dare you! グレタさんの有名なフレーズ)

もし、この状況を本当に理解しているのに、行動を起こしていないのならば、あなた方は邪悪そのものです。今後10年間で温室効果ガスの排出量を半分にしようという、一般的な考え方があります。しかし、それによって世界の気温上昇を1.5度以内に抑えられる可能性は50%しかありません。

あなた方は私たちに裏切っています。しかし、若者たちはあなた方の裏切りに気づき始めています。未来の世代の目は、あなた方に向けられています。もしあなた方が私たちに裏切ることを選ぶなら、私は言います。あなたたちを絶対に許さない。

3. グレタさん国連スピーチ後の世界の反響は

- 2019年10月、ロシア・プーチン大統領、「私はグレタさんの意見に共感しない」。
- 2019年11月、米Time誌はグレタさんを今年の人(Parson of year)に認定。
- 2019年12月、小泉環境大臣、「大人を糾弾するのではなく、全世代を巻き込むアプローチを」。
- 2019年12月、米トランプ大統領、「とてもばかばかしい、落ち着けグレタ」。
- 2020年1月、米ムニョシン財務長官、「大学で経済学を学んでから戻ってきて」。
- 2020年1月、英チャールズ皇太子、グレタさんと面会し「人類が直面した最大の危機」と共鳴。
- 2020年2月、ノーベル平和賞のマララさんと面会。
- 2020年3月、EU会議でEU気候変動対策を酷評。帰国後コロナに感染したが現在は回復。



国連で怒りのスピーチ (How dare you!)



トランプ大統領「ばかばかしい、落ち着けグレタ」

4. 国立環境研究所、地球環境研究センター副センター長、江守正多氏のコメント

彼女の主張の印象は、彼女は本人の意思で行動を始めた、感じ方・表現の仕方が普通とは違う、特定政策ではなく科学者の声を聴くよう訴えている、大人に怒っているが、大人を憎んではない

気候変動は大人たちが子供の将来に危機をもたらすこと、世界のCO2排出量をあと10年で半分にすべきこと、牛肉生産が大きな環境負荷をもたらすこと、日本の石炭火力発電の新設が世界から批判されていること、これまで一部の関心ある人たちの話題でしかないことが、彼女により一気に日本全国のお茶の間に届いたことに、興奮を隠せない。

彼女の主張する危機感は、最新の科学を踏まえたものだ。9.19には日本学術会議の会長も、同趣旨の緊急メッセージを発信している。

彼女は飛行機に乗らず、肉を食べないが、他人にもそれを要求しているのではない。彼女は、個人の変化だけでなく、社会システムの変化が大事だと主張している。人々に「我慢」や「不便」を強いることは、彼女が求めていることではない。

5. 「地球環境に学ぶ」サークル討論の主な意見

- グレタさんの功績は、地球温暖化問題の深刻さ、危機感を世界中の話題にしたこと。
- 日本もやっと低効率石炭火力の廃止方針を出したが、高効率石炭火力は新設容認。時代遅れでは。
- 政府が原発廃止を明言しないと、太陽光・風力・地熱等の再エネ投資が加速しない。
- 日本は基本政策やビジョンを決められない。政治家の問題か、国民の危機感の問題か。
- コロナ影響で世界の温室効果ガス発生は昨年比で8%減の予測。但しコロナ収束後はどうなるか微妙。
- グレタさんに触発された「グローバル気候マーチ」は世界で400万人/年、日本では報道も少ない。
- 我々サークルで「地球環境宣言」を出そう。車利用削減、脱プラ・ゴミ少量化、省電力等々。